

< 報告事項1 >

事業報告

自 平成 23 年 7 月 1 日

至 平成 24 年 6 月 30 日

1. 事業の概況

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構(以下、Vリーグ機構)は、公益財団法人日本バレーボール協会から独立法人化して今期で7年目を迎えました。

当事業年度は、平成22年9月に開催した第5回定時社員総会において選任され、2期目に入った理事会は第6期に引き続き、木村憲治代表理事会長、井原実副会長体制で第7事業年度をスタート致しました。平成23年7月1日付にて、Vリーグ機構事務局長人事が発令され、林孝彦理事が梅北精幸理事の後任として就任致しました。期中、同7月に梅北理事が出身母体会社の人事異動により、また、平成24年6月に鬼丸重光理事が自身の健康上の理由により辞任致しました。現在、理事8名、監事2名体制で運営しております。

東日本大震災の影響で2010/11シーズンの終盤戦を中止せざるを得なかった前年度の後を受け、ロンドンオリンピックを目前にした2011/12シーズンは、強化に向け非常に重要なシーズンでありました。選手にとってはレベルアップを図り、代表入りに向けアピールするシーズンであり、ロンドンオリンピック出場権獲得と東日本大震災被災者のみならず被災地および日本に元気を届けようとの思いから、シーズンのキャッチコピーを『Vの力!~今できるすべてをかけて~』とすることに致しました。

プレミアリーグの女子大会は平成23年12月10日、男子大会は12月24日に開幕、チャレンジリーグは女子・男子大会とも12月10日に開幕致しました。以後、順調にリーグ日程を消化し、プレミアリーグは優勝決定戦・3位決定戦を女子が平成24年3月24日、男子が3月25日にそれぞれ開催致しました。また、チャレンジリーグも男子が3月4日、女子が3月11日に無事に予定した日程を終了しました。

さらに、3月31日・4月1日の日程でチャレンジマッチを行い、全ての日程を消化し、無事2011/12シーズンを終了することが出来ました。

以下、個別事業の活動概況を、メイン事業のプレミアリーグ、チャレンジリーグを中心に詳述致します。

(1)V・プレミアリーグ

2011/12シーズンは、女子・男子大会ともにロンドンオリンピック世界最終予選兼アジア大陸予選が日本で開催されるため、前年までのレギュラーラウンド8チーム4回戦総当たりから3回戦総当たりリーグ戦に変更したレギュラーラウンドとファイナルラウンドの競技形式で、レギュラーラウンド84試合、ファイナルラウンド8試合の計92試合、男女計184試合を延べ53会場(女子26会場、男子27会場)で開催する計画にて、女子大会はオリンピック予選を兼ねたワールドカップ2011の終了を待って12月10日、男子大会は天皇杯・皇后杯を挟んで12月24日に開幕致しました。

優勝決定戦、3位決定戦を女子が平成24年3月24日、男子が3月25日に行う、4ヶ月に満たない短期決戦のシーズンでありました。

そうしたシーズンではありましたが、Vリーグ機構が目指すものとして掲げたビジョン、「世界に挑戦」「フ

アン重視」「地域に密着」「常に発展」「成果の拡大」に沿った諸施策や社会貢献活動を推進致しました。主なものとしては、次のとおりです。

① 大会キャッチコピー

毎年一般から公募して決めているVリーグのキャッチコピーについて、2011/12 シーズンは、選手としてロンドンへ向けリーグを通して切磋琢磨、レベルアップを図ることと、東日本大震災で大きな被害を受けた被災地と日本に元気を届けようとの思いから『Vの力!～今できるすべてをにかけて～』に決定致しました。

② 増客プロジェクト

現状、入場者数が年々減少傾向にあり、今後は国内における国際大会開催が少なくなることも予想され、バレーボール人気低迷打開策、増客施策をチーム、開催地と協力しながら、中長期的スパンで推進することとしました。

(I) 観戦者を対象にしたアンケートの実施

(II) モデル会場を設定し増客施策の実施(岡山県、東京都、岩手県)

具体的には、観戦者を対象にしたアンケート調査を実施、今後複数年の計画で全国各地のデータを収集予定。

また、プレミアリーグ女子の開幕戦を全 8 チームが集結し開催。同大会の増客施策として、街頭PRを複数回実施。テレビ放送を積極的に活用した告知活動も行いました。詳細は直前に元全日本選手(大山加奈氏)テレビ生出演や、前日には全日本メンバーによるテレビ生出演を実施。

③ 大会広報活動

観客入場者数に対する増客対策として、ドワンゴ社の「ニコニコ動画」によるインターネット動画配信の生放送を試験的に実施しました(プレミアリーグ開幕記者会見および女子大会は12月24日の徳島大会、男子大会は3月16日・17日のセミファイナル岩手大会)。

④ 普及とファンサービス

(I) 北から南まで全国延べ 53 会場での開催

(II) キッズエスコートの全会場での実施

(III) エントランスアーチなど会場内外演出の見直しと充実

(IV) サイン入りミニボールの投げ込み

⑤ ファイナルラウンドの充実

(I) レギュラーラウンド 1 位チームへの賞金と副賞(アジアクラブ選手権派遣)授与の継続

(II) セミファイナルラウンドの女子大会(岐阜県)、男子大会(岩手県)での開催

(III) 3 位決定戦、優勝決定戦の男子・女子大会を同一会場で開催

(IV) コンセプトに『あなたからのエールで、みんなに「気!」を』を掲げ、ファイナルの会場で様々なイベントを開催

(V) ファイナルにおけるワンディプログラムの発行

(VI) 特別ステージを設営しイベント、表彰式、授与式の実施

(VII) ファン参加型のイベント実施(入場者プレゼント、フォトパークなど)

⑥ ホームページ等によりファンサービスの充実と盛り上げ

- (Ⅰ) ホームページの有料コンテンツの充実、情報発信の迅速化、画像情報強化など実施
- (Ⅱ) ホームページの迅速な情報発信
- (Ⅲ) JVISスーパーバイザー制度の充実

⑦ ホームゲームの充実

- (Ⅰ) 女子レギュラーラウンド全 84 試合中 33 試合、男子全 84 試合中 40 試合でホームゲーム実施
- (Ⅱ) 計画的な運営(ホームゲーム計画書の提出の義務化)とイベント充実の促進
- (Ⅲ) 各チームでの取り組みの充実

⑧ その他

- (Ⅰ) テレビ放送は、これまでのNHK、GAORAに加え、TBSにCS放送にて 4 試合放映して頂きました
- (Ⅱ) ローカルテレビ放送も例年通り多数の放送局に放映して頂きました

入場者数を見ると、男子・女子大会合計で 242,537 人(対前年比 6,530 人減)、男子大会は 101,371 人(同 4,741 人減)、女子大会では 141,166 人(同 1,789 人減)となりました。今シーズンはレギュラーラウンドが 3 回戦総当たりになったため単純比較はできませんが、1 開催日平均では、女子が 3,069 人(前年比 320 人増)、男子が 2,112 人(前年比 10 人減)でした。昨年度は東日本大震災によりファイナルラウンドを行っていないことを踏まえると女子は微増、男子は実質的に減少していると思われます。前述した増客プロジェクトを含め様々な施策を考え、実行していかなければならない課題が改めて浮き彫りになりました。

(2) V・チャレンジリーグ

2011/12 シーズンの V・チャレンジリーグは、男子大会が参加 11 チームによる 1 回戦総当たりのレギュラーラウンドと決勝ラウンド(上位リーグ 6 チームと下位リーグ 5 チームに分かれての順位決定リーグ)、女子大会は参加 12 チームによる 2 回戦総当たりリーグ戦とし、男子 80 試合、女子 132 試合を計画、男子大会は 12 月 10 日～3 月 4 日、女子大会は 12 月 10 日～3 月 11 日までの日程で開催致しました。

チャレンジリーグの競技力強化と大会の運営を、プレミアリーグに近づけ大会の質の向上と運営の改善、効率化を年々行なってきましたが、Vリーグ機構入社 6 年目のシーズンとなった今シーズンはさらにこれを推し進め、さらにホームタウンゲームの試合数を増やし、地域密着化を図りました。

具体的には、選手個々のレベルアップを図り、派遣役員体制の見直し、競技力強化、競技運営強化に努め、サイン入りミニボールの投げ込みやキッズエスコートなど、ファン対策・集客アップにつながるイベントの標準化を進めてまいりました。

入場者数は、男子・女子大会合計で 75,969 人(対前年比 4,979 人増)、男子大会は 16,450 人(同 4,790 人減)、女子大会は 59,519 人(同 9,769 人増)となりました。増加要因は、女子大会の増加に支えられた結果によるものです。男子大会が東日本大震災の影響により開催会場確保に苦慮し、昨シーズンと試合方式を代え、試合数が減少したことによるものです。1 開催日平均では、女子が 1,063 人(前年比 106 人増)、男子が 548 人(前年比 42 人減)でした。女子大会は地道な告知活動、ホームタウンゲームの活性化にささえられ、白熱した上位争いを展開、入場者数が増加し、前年度比 111%、男子大会は前年

度比 93%でした。特に男子大会の減少傾向に対しては、多方面から要因の分析と増客に向けた対策を講ずることが急がれます。

(3) 社会貢献活動

① 東日本大震災への復興支援

- (I) V・プレミアリーグ全ホームゲームで「応援メッセージバナー」に選手・ファンのメッセージ記入(ファイナル・セミファイナルでの掲示)
- (II) 会場内に「復興支援バナー」を掲示
- (III) セミファイナル男子大会にて被災者の方々をご招待した「元気シート」を設置
- (IV) ファイナル会場にて募金活動を実施日本赤十字社に寄付
- (V) ファイナルにて各チームの復興支援活動報告
- (VI) 2011V・サマーリーグ女子大会(1次リーグ、決勝リーグ)を復興支援チャリティー大会と位置付け、各種チャリティーイベントや募金活動を実施、大会収入の一部を復興支援金として被災地 3 県(岩手県、宮城県、福島県)のバレーボール協会に寄付

② 骨髄バンク支援活動の継続

- (I) 大会会場における啓発活動(全会場でリーフレットを配布)
- (II) ファイナルでのブース展開

(4) バレーボール教室の開催等

Vリーグ機構としては年間を通して、バレーボール教室の開催(チームによるバレーボール教室及びJVA 指導普及委員会の行なう「Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室」)や、平成 15 年度から始めた「ジュニア育成支援活動」など、ジュニアの育成、地域に密着した社会貢献型の活動にも引き続き力を入れてきました。

プレミア・チャレンジ両リーグのチームが主催したバレーボール教室は、全国各地で延べ702日開催し(昨年度比30%減)、小学生から家庭婦人まで57,697人の生徒(昨年度比1%減)を迎え、盛況のうちに開催し好評を博しました。

(5) 国際交流

① 日韓 V.LEAGUE TOP MATCH

日韓 V. LEAGUE TOP MATCH は、ロンドンオリンピック世界最終予選兼アジア大陸予選が日本で開催される為、平成 23 年度の開催は見送りました。(平成 22 年度は東日本大震災の影響を受け韓国バレーボール聯盟と協議の上開催を中止致しました。)

平成 24 年度は韓国バレーボール聯盟と協議の上、日本で開催することで合意を得ております。

② アジアカラブ選手権への派遣

アジアバレーボール聯盟が主催する本大会は、トップリーグの国際競技力の強化、アジア地域におけるスポーツ文化交流の面で重要な大会であることから、平成 19 年度から男子・女子ともプレミアリーグ、レギュラーラウンド 1 位チームを派遣してきました(平成 22 年度は派遣見送り)。

今年は、女子大会(タイ/ナコンラーチャシーマー:4月21日～4月29日)に東レアローズを、男子大会(中国/上海 :6月30日～7月8日)に東レアローズを派遣しました。

(6)助成金

Vリーグ機構は、我が国における国際競技力の向上を期すための国の助成金制度「競技強化支援事業助成金(国庫基金)」を制度開始の平成15年度から毎年交付を受けております。さらに、「将来性を有する競技者発掘および育成活動のための支援事業としての助成金(toto助成)」を独立行政法人日本スポーツ振興センターより23年度から交付を受けました。

平成23年度については、両助成金で35,038千円の交付金を受け、マネジメント機能強化、研修会やトップリーグ活性化、チャレンジリーグの強化育成および活性化の為、諸施策を実施しました。事業規模は総額66,235千円となり、当機構の運営、事業推進に大きな成果を出しました。

今後とも制度の主旨に沿った有効活用を心がけ、競技力向上とリーグ活性化に努めてまいります。

(7)協賛について

今シーズンもプレミアリーグに対して、多くの企業から協賛をいただくことができました。

協賛いただきました各社と、お世話になりました株式会社電通並びに公益財団法人日本バレーボール協会に厚くお礼申し上げます。

以上のようなVリーグ機構の活動の成果を経営数値面で見ますと、試合数の減少(プレミアリーグがロンドンオリンピック世界最終予選兼アジア大陸予選開催のため3回戦総当たりに変更)および協賛金減少の影響はありましたが、今年度よりスポーツ振興くじ助成金の交付もあり、事業収益は総額397,049千円(前期比279千円増)、費用は賞金が東日本大震災前の水準に復活したこともあり、総額は379,005千円(前期比10,507千円増)となりました。

経常利益は18,306千円(前期比9,987千円減)、前期特別損失19,570千円を計上したこともあり、当期純利益は9,394千円(前期比1,540千円増)の増収増益となりました。

今後の見通しとしては、ユーロ圏諸国および世界的経済不況の影響を受け、我が国の景気も早急に回復が見込めない状況であり、バレーボール界を取り巻く環境も一段と厳しさが増すものと思われまます。Vリーグ機構としてはリーグ運営並びに主催大会の一層の活性化のために、財政の安定、充実に向け引き続き効率的な経営に取り組んでいく所存です。

法人設立時に掲げた5つのビジョンの実現に向け、より開かれた組織運営と事業活動を継続して取り組むとともに、公益財団法人日本バレーボール協会をはじめ、都道府県バレーボール協会他関係諸団体との協力関係につきましてもより一層緊密化を図り、社員各位の期待に応えてまいります。

2. 社員の概況

*社員名、チーム名は平成24年6月30日現在 (順不同)

社員名	チーム名	区分	基金の口数	基金の額 (円)
公益財団法人日本バレーボール協会			12	6,000,000
株式会社ウォーク	岡山シーガルズ	女子	1	500,000
サントリーホールディングス株式会社	サントリーサンバーズ	男子	1	500,000
株式会社デンソー	デンソーエアリービーズ	女子	1	500,000
東北パイオニア株式会社	パイオニアレッドウィングス	女子	1	500,000
東レ株式会社	東レアローズ	男子	1	500,000
	東レアローズ	女子	1	500,000
豊田合成株式会社	豊田合成トREFELSA	男子	1	500,000
日本たばこ産業株式会社	JTサンダーズ	男子	1	500,000
	JTマーヴェラス	女子	1	500,000
日本電気株式会社	NECレッドロケッツ	女子	1	500,000
久光製薬株式会社	久光製薬スプリングス	女子	1	500,000
日立オートモティブシステムズ株式会社	日立リヴァーレ	女子	1	500,000
株式会社ブレイザーズスポーツクラブ	堺ブレイザーズ	男子	1	500,000
パナソニック株式会社	パナソニックパンサーズ	男子	1	500,000
一般社団法人上尾中央医科グループ協議会	上尾メディックス	女子	1	500,000
株式会社大野石油店	大野石油広島オイラーズ	女子	1	500,000
近畿クラブ	近畿クラブスフィーダ	男子	1	500,000
株式会社栗山米菓	Befco ビービースターズ	女子	1	500,000
警視庁	警視庁フォートファイターズ	男子	1	500,000
社会福祉法人健祥会	健祥会レッドハーツ	女子	1	500,000
三洋電機株式会社	三洋電機レッドソア	女子	1	500,000
株式会社ジェイテクト	ジェイテクトSTINGS	男子	1	500,000
医療法人青雲白鷺会三好内科・循環器科医院	大分三好ヴァイセアドラー	男子	1	500,000
大同特殊鋼株式会社	大同特殊鋼レッドスター	男子	1	500,000
一般社団法人つくばユナイテッドサンガイア	つくばユナイテッドSun GAIA	男子	1	500,000
医療法人社団天宣会	柏エンゼルクロス	女子	1	500,000
東京フットボールクラブ株式会社	FC東京	男子	1	500,000
トヨタ自動車株式会社	トヨタ自動車サンホークス	男子	1	500,000
トヨタ車体株式会社	トヨタ車体クインシーズ	女子	1	500,000
東京ヴェルディ1969フットボールクラブ株式会社	東京ヴェルディ	男子	1	500,000
富士通株式会社	富士通カワサキレッドスピリッツ	男子	1	500,000
KUROBEアクアフェアリーズ	KUROBEアクアフェアリーズ	女子	1	500,000
株式会社PFU	PFUブルーキャッツ	女子	1	500,000
NPO法人阪神バレーボールコミュニティ	阪神デルフィーノ	男子	1	500,000
NPO法人エイティエイツバレーボールクラブ	仙台ベルフィーユ	女子	1	500,000
株式会社きんでん	きんでんトリニティーブリッツ	男子	1	500,000
東京トヨペット株式会社	東京トヨペットグリーンスパークル	男子	1	500,000
株式会社熊本サービスセンター	フォレストリーヴズ熊本	女子	1	500,000
グリーン・サポート・システムズ株式会社	GSSサンビームズ	女子	1	500,000
合計	(38団体) (39チーム)		51	25,500,000

3. 運営体制の強化

(1) 概況

平成 22 年 9 月に開催した第 5 回定時社員総会において選任され、2 期目に入った理事会は第 6 期に引き続き、木村憲治代表理事会長、井原実副会長体制で第 7 事業年度をスタート致しました。

平成 23 年 7 月 1 日 林孝彦理事、事務局長に就任

平成 23 年 7 月 13 日 梅北精幸理事辞任

平成 24 年 6 月 1 日 鬼丸重光理事辞任

現在、理事 8 名、監事 2 名体制で運営しております。

(2) 役員一覧

平成 24 年 6 月 30 日現在

代表理事 (会長)	きむら けんじ 木村 憲治	第 5 期監事、第 6 期～第 7 期代表理事、(株)扇港電機顧問、 公益財団法人日本バレーボール協会理事 昭和 20 年(1945 年)7 月 19 日生
理事 (副会長)	いはら みのる 井原 実	第 4 期～第 7 期理事、井原実公認会計士事務所所長 昭和 22 年(1947 年)1 月 28 日生
理事	まの よしゆき 間野 義之	第 2 期～第 7 期理事、早稲田大学スポーツ科学学術院教授 昭和 38 年(1963 年)12 月 2 日生
理事	みよし とおる 三好 徹	第 2 期～第 7 期理事、三好総合法律事務所所長 昭和 22 年(1947 年)4 月 15 日生
理事	おだ かつみ 小田 勝美	第 6 期～第 7 期理事、(株)ブレイザーズスポーツクラブ専務取締役 堺ブレイザーズバレーボール部部長 昭和 27 年(1952 年)5 月 6 日生
理事	くぼた りゅういち 窪田 隆一	第 6 期～第 7 期理事、富士通(株)システムインテグレーション部門 事業推進統括部長 富士通カワサキレッドスピリッツバレーボール部部長 昭和 38 年(1963 年)4 月 29 日生
理事	さいとう せいじ 斎藤 聖二	第 6 期～第 7 期理事、公益財団法人日本バレーボール協会 国内事業部事業部長 昭和 33 年(1958 年)6 月 19 日生
理事	はやし たかひこ 林 孝彦	第 6 期～第 7 期理事、一般社団法人日本バレーボールリーグ機構 事務局長 昭和 34 年(1959 年)8 月 1 日生
監事	たきもと のりあき 滝本 規明	第 5 期～第 7 期監事、元サントリー(株)取締役、監査役 昭和 18 年(1943 年)12 月 4 日生
監事	はやの ようじ 早野 容司	第 6 期～第 7 期監事、(株)ジェイテクト販売促進部部長 ジェイテクトSTINGSバレーボール部 GM 兼副部長 昭和 35 年(1960 年)3 月 3 日生